

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人アクロス福岡	
施 設 名	福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内 定 額 (総 額)	11,792	(千円)
	公演事業	11,792 (千円)
	人材養成事業	0 (千円)
	普及啓発事業	0 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	安永徹&市野あゆみ 九 響・札幌の室内楽	令和3年7月23日※	ブラームス/ピアノ五重奏曲 他 出演：安永徹（ヴァイオリン） 市野あゆみ（ピアノ） 山下大樹（ヴァイオリン）、廣狩亮（ヴィ オラ）、山本直輝（チェロ）	目標値	500
		福岡シンフォニーホール		実績値	262 ※
2	アクロス室内楽セレクシ ョンNo. 1【251年目のベ ートーヴェン】	令和3年7月25日	ベートーヴェン/弦楽七重奏曲 変ホ長 調 op. 20 他 出演：景山誠治（ヴァイオリン） 吉田秀（コントラバス）、鈴木学（ヴィオ ラ）、山本裕康（チェロ） 他	目標値	500
		福岡シンフォニーホール		実績値	302 ※
3	アクロス室内楽セレクシ ョンNo. 2【珠玉の弦楽 合奏曲】	令和3年12月26日※	メンデルスゾーン/弦楽八重奏曲 変ホ 長調 op. 20 他 出演：山本友重（ヴァイオリン） 篠崎友美（ヴィオラ）、向山佳絵子（チェ ロ）、山本直樹（チェロ） 他	目標値	250
		国際会議場		実績値	191 ※
4	「251年目のベートーヴ ェン～新日本フィルハー モニー交響楽団」	令和3年7月14日	ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第5番 「皇帝」、交響曲第7番 出演：大友直人（指揮） 清水和音（ピアノ） 新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値	1,250
		福岡シンフォニーホール		実績値	818 ※
5	仮想空間で体現する能の 世界	令和3年12月4日	能楽「経正」「熊野」「葵上」 出演：坂口貴信、谷本健吾 演出：奥秀太郎	目標値	900
		イベントホール		実績値	224 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>「福岡県の文化振興の文化振興の拠点施設である福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）の機能を高め、県民に質の高い文化を提供する。さらに、障がいの有無や経済状況等に左右されることなく、あらゆる人が等しく文化を享受できる環境整備に努め、県民の心豊かな生活と活力ある地域社会の実現を目指す」ことをミッションとして設定し、下記の採択事業を適切に実施した。</p> <p>【公演事業】</p> <p>すべての事業が新型コロナウイルス感染症の影響により客席制限 50%での実施となったため、入場者数は目標値に届かなかった。事業番号①「安永徹&市野あゆみ」事業番号②③「アクロス室内楽セレクション No. 1、2」は国内トップクラスの奏者と地元九州交響楽団奏者や若手演奏家などが共演。研鑽の場となることで、芸術性の高い良質の音楽を地域住民へ披露することができた。また、県内へのアウトリーチ公演では豪雨災害の被災地である福岡県東峰村へ弦楽合奏団を派遣して演奏するなど、地域住民へ音楽鑑賞の機会を提供した。</p> <p>事業番号④「新日本フィルハーモニー交響楽団」では「プレクチャー講座」を実施するなど、クラシック初級者から愛好家まで幅広く集客することができ、客席制限をしながらも本格的なオーケストラ公演を提供することができ、完売に近い盛況であった。</p> <p>事業番号⑤「仮想空間で体験する能の世界」は最新の VR 技術を使用した新しい芸術体験を提唱した。伝統芸能と VR 技術の融合は、能楽等の古典芸能愛好家だけでなく、若い世代にも大きくアピールすることができ、能の魅力をもっと伝える機会となった。</p> <p>以上、いずれの事業も感染症の影響による入場者数の減以外は、当初の予定通りに実施することができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>【文化的意義】</p> <p>国内トップレベルの音楽家の良質な音楽や、古典芸能と最新技術のコラボレーションなどにより、県民に一流の音楽・舞台芸術をバランスよく提供することができた。また、室内楽公演のメンバーに地元九州交響楽団のメンバーや若手演奏家を抜擢するなど、音楽家に研鑽の機会を与えることができた。</p> <p>【社会的意義】</p> <p>地域へのアウトリーチ事業などにより、誰もが等しく文化を享受できる環境整備に努め、鑑賞の機会を増やすことができた。県内の飯塚市へのアウトリーチや、豪雨災害の被災地である福岡県東峰村での演奏会などを実施し、普段聴く機会の少ない本格的なクラシック音楽の生演奏を披露することができた。</p> <p>他の類似ホールとの連携事業にも積極的に取り組み、札幌コンサートホールとは「安永徹&市野あゆみ 九響&札幌の室内楽」事業を一緒に制作したほか、同じ九州の熊本県立劇場と山陰地方の鳥取県米子市公会堂と「251年目のベートーヴェン～新日本フィルハーモニー交響楽団」公演を共同で実施し、事業ノウハウの共有を図ることができた。</p> <p>【経済的意義】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による入場者制限がある中、助成による支援は大変有難く、計画通りに優れた音楽・舞台芸術公演を実施することができた。公演に関するステークホルダーへの経済波及効果は絶大で、演奏家はもちろん、宿泊施設や会場の飲食店、チラシ製作や舞台制作関係者、アルバイトなど大きく貢献した。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

福岡県民に「文化の創造と享受の場を提供する」という社会的役割を達成するため、質の高い音楽・舞台芸術への鑑賞機会と参加を幅広く提供していく。本公演事業に応募した5事業について目標を設定し、下記達成状況を記した。

①【収益について】

・事業収支を常に意識し、チケット収入等の増加を図るとともに事業経費の削減に努めた。しかし新型コロナウイルス感染症の影響により客席数を制限するなど、社会情勢も自粛ムードが漂い、収益は厳しい結果となった。

【目標は未達】となった。

・チケット販売額 60%未満 ・自己財源比率 40%未満 ・事業経費削減効果（助成金獲得）

②【観客について】

・従来の高年齢層だけでなく、若年層、特に学生等、次世代観客の獲得に努めたが、【目標は未達】となった。

・来場者満足度 - 新型コロナウイルスの影響により WEB アンケートを実施し、平均回収率2件と判定不能。

・学生・次世代観客の獲得 学生券5事業平均：14枚 ※R2年度実績：32枚

③【運営】

・本公演はもとより、アウトリーチを通して文化芸術をより身近に感じてもらった。ホール間連携による協働作業を通じて事業運営ノウハウを共有できた。【目標を達成】した。

・事業の有効性を高める工夫 連携事業等の実施。札幌との共同企画（事業番号1）、福岡県内へのアウトリーチ（事業番号2, 3）、熊本、米子との共同企画（事業番号4）

・社会的役割（ミッション）を実現させる事業としてふさわしかった。地域へのアウトリーチ活動や、他のホールとの連携事業を実施した。

・当日の運営面 スムーズな事業運営が行えた。特に新型コロナウイルス感染症対策を万全に実施した。

④【広報】

・ミッションを達成するためには当事業内容の幅広い告知が重要である。テレビやネット、新聞等のメディアを活用し、効果的な広報を行う。特に WEB や SNS での広報の可能性を探り、積極的に活用した。【目標は達成】した。

・公演前後の媒体への露出 イベント情報掲載。毎日新聞にて掲載（事業番号5）、その他 SNS 等を活用した告知を実施した。フェイスブック、ツイッターからの流入数：20,000PV 以上

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の日程変更や、客席制限 50%での実施に伴う入場者数の減少など影響が出たが、予定通り適切に事業を遂行できた。

◆事業期間 ※日程変更および会場の変更は新型コロナウイルス感染症の影響による

公演 1 【安永徹&市野あゆみ 九響&札響の室内楽】

【計画】2021年5月29日(土)

【実績】2021年7月23日(金・祝)

公演 2 【アクロス室内楽セレクション No.1 ~251年目のベートーヴェン】

【計画】2021年7月下旬 アウトリーチ事業：2021年7月下旬 福岡県内文化施設

【実績】2021年7月25日(日) アウトリーチ事業：2022年3月21日 イイツカコスモスコモン(飯塚市)

公演 3 【アクロス室内楽セレクション No.2 ~珠玉の弦楽合奏曲】

【計画】2021年12月下旬 アウトリーチ事業：2021年12月下旬 福岡県内文化施設

【実績】2021年12月26日(日) アウトリーチ事業：2021年12月25日(土) 東峰村いずみ館(朝倉郡)

公演 4 【251年目のベートーヴェン~新日本フィルハーモニー交響楽団】

【計画】2021年7月14日(水) アウトリーチ事業：2021年6月 福岡県内文化施設

【実績】2021年7月14日(水) 公開講座(プレレクチャー)：2021年6月21日(月) アクロス福岡

公演 5 【仮想区間で体現する能の世界】

【計画】2021年12月4日(土) プレトーク：12月4日(開演前)

【実績】2021年12月4日(土) プレトーク：12月4日(開演前)

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

客席制限 50%での実施に伴うチケット販売収入の減少など、収入に大きな影響が出たが、事業費支出についてはほぼ計画通りの支出となり、適切に遂行することができた。

◆事業費(公演事業5事業)

【計画】29,531千円 【実績】29,373千円 (計画比99.4%)

公演 1 【安永徹&市野あゆみ 九響&札響の室内楽】

・「演奏料」について、計画時よりも減額。

公演 2 【アクロス室内楽セレクション No.1 ~251年目のベートーヴェン】

・「出演費」と「宣伝費」にて、支出が計画より増額。

公演 3 【アクロス室内楽セレクション No.2 ~珠玉の弦楽合奏曲】

・「演奏料」について、計画時よりも減額。

公演 4 【251年目のベートーヴェン~新日本フィルハーモニー交響楽団】

・「宣伝費」について、計画時よりも減額。

公演 5 【仮想区間で体現する能の世界】

・「舞台設営費」について、計画時よりも増額。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

地域の文化拠点として一流の音楽芸術公演の提供のほか、県内のアウトリーチ事業を実施した。地域の期待に応えていくため、特に関係団体との連携・協働を図った。

●文化拠点としての機能を最大限に発揮するための【資源】

(1) 劇場音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物

・安永徹（ヴァイオリニスト）：元ベルリン・フィルハーモニー交響楽団、福岡シンフォニーホール監修者
当施設のメインホールである「福岡シンフォニーホール（アクロス福岡）」は、福岡出身の安永徹氏が監修者として設計に参加し完成した。このホールの効果を最大限に生かすため、特に弦楽器の響きに注目した事業①「安永徹&市野あゆみ 九響・札響の室内楽」を実施し、若手奏者の抜擢など後進の育成にも貢献している。

・景山誠治（ヴァイオリニスト）：桐朋学園大学教授、アクロスヴァイオリンセミナー講師

アクロス福岡では定期的なマスタークラス「アクロスヴァイオリンセミナー」にて若き才能の発掘に力を注ぐほか、「アクロス弦楽合奏団」の中心メンバーとしても活躍。地元の九州交響楽団の協力のほか、国内トップレベルのオーケストラ（N響、都響、読響、日フィル、東フィルなど）や指導者、ソリストとして活躍する著名演奏家をアクロス福岡へ集結。今回も室内楽公演を通じて地域の聴衆に国内トップレベルの演奏を披露している。

(2) 関係団体との協働

・九州交響楽団：事業①「安永徹&市野あゆみ 九響・札響の室内楽」奏者の選定・派遣。

九州交響楽団は定期演奏会で当ホールを利用。前日リハーサル会場を当財団で提供。同じホールで前日リハーサルができるため、音作りの面で貢献している。

(3) 創作活動に関わる建築設備等

・福岡シンフォニーホールは、世界的演奏家の名演を支えてきた九州を代表する音楽ホールのひとつ。音響の良さに定評をいただいている。開館 25 年目を迎え、大規模な改修工事を 2021 年 8 月より 14 か月間実施。ホール内にエレベーターの新設工事や、優先トイレへのオストメイト対応工事など、年齢や障害の障壁を取り除き、誰もが安心・安全に利用できるホールを目指している。

(4) 安全のための取組

・アクロス福岡のビル管理会社と「アクロス福岡共同防火防災管理協議会」を設置。施設全体で連携を緊密にしながら訓練を実施し危機管理体制を強化。消防機関より「防火対象物特例認定」を受けている。

●文化拠点としての機能を最大限に発揮するための【事業】

(1) 公演の企画内容、芸術性

事業②③「アクロス室内楽セレクション」事業は、室内楽による芸術性の高い公演を定期的実施していくことで、地域での音楽文化の向上を図り、安価で良質な音楽鑑賞の機会を提供している。出演者は、景山誠治氏を中心に、国内のトップ奏者である山本友重、田中雅弘、吉田秀や篠崎友美などが参加。他にも地元の九州交響楽団奏者やアクロスヴァイオリンセミナー卒業生が参加。若手演奏家の研鑽にも繋がっている。

(2) 文化芸術情報の蓄積、提供、発信

WEB 会員制度の導入を機に、アーカイブのデジタル化を推進。ホームページやメールマガジン中心としたこれまでの取組に加え、LINE 登録やデジタルサイネージ等の新たなデジタル媒体を活用。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

地域の文化拠点として感染症の感染拡大に注意しながら、安心安全に最大限の配慮を行い、質の高い音楽舞台事業をバランスよく実施した。県内どこに住んでいても質の高い舞台芸術を気軽に鑑賞できるよう「アクロス室内楽セレクション」では、アウトリーチ事業も実施。鑑賞型事業だけではカバーできない地域に対する企画として音楽振興の裾野の拡大に務めた。

当施設の強みとして、設立団体や地域の期待に応じていくため、アクロス福岡単独での事業企画に留まらず、関係団体・民間事業者との連携・協働の強化も図ってきた。

区分	連携・協働先	連携・協働内容
芸術団体	九州交響楽団 観世流能楽師	・九州交響楽団による奏者の選定・派遣 「安永徹&市野あゆみ 九響&札響の室内楽」 ・大濠公園能楽堂休館期間中に実施 「仮想空間で体现する能の世界」
公共ホール	飯塚コスモスコモン(福岡県) 熊本県立劇場(熊本県) 米子市公会堂(鳥取県)	・アウトリーチ公演実施(福岡県飯塚市) 「アクロス室内楽セレクション No.1」 ・公共ホール3館での連携事業(熊本・鳥取・アクロス福岡) 「251年目のベートーヴェン～新日本フィルハーモニー」
行政	福岡県	・豪雨災害被災地である「福岡県朝倉郡東峰村」へのアウトリーチ公演実施 「アクロス室内楽セレクション No.2」
ボランティア	ボランティア、NPO法人 とびうめの会	・公演事業の協働運営 ・文化芸術に携わる人材の育成

国内の優れた音楽家やオーケストラを地域住民へ紹介できたこと、日本が誇る伝統芸能「能」を、新たな視点で楽しめる「VR能」を制作・公演することができたことなど、新型コロナウイルス感染症の影響による【実演芸術の空白】を埋めるべく、工夫して事業を実施することができた。これはステークホルダーの協力なくしては実現できないことである。

今後も、大型公演を共に実施できるパートナーの存在、費用の分散による事業収支の改善、事業量の確保、企画の多様化、民間事業者に対する文化振興機会提供の増大などがアクロス福岡の強み・特色となり、質の高い大型公演の招聘、リスクが大きく取り上げにくいと言われる無名の優れたアーティストの紹介、連携施設間での共同事業の展開、民間事業者による文化芸術事業の継続性の確保など、その成果をあげていき、地域の文化芸術の発展に寄与していく。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当財団組織が標榜する「ミッション」のうちのひとつに「芸術文化に携わる人の育成」がある。この社会的役割を遂行するためには、持続可能な運営体制と財政基盤の強化が必要である。PDCA サイクルを用いて持続的に発展していくべく、以下の取り組みを行っている。

【人材面】

●職員の確保と配置

- ・アートマネジメント職員の採用（音楽の経験や企画・マネジメント能力のある専門的人材は不可欠）事業企画担当 11 名の内 5 名がアートマネジメント職員として活動。

●人材育成プラン（年間の研修計画を策定し、持続可能な人材育成に努める）

- ・「基本研修」財団を運営していく上で必要不可欠な知識習得を目的。（ミッションの共有、危機管理）
- ・「専門研修」業務上必要な専門性の確保。（全国公立文化施設協会や福岡県職員研修所への参加）
- ・「階層別研修」組織を担う人材を育成。（中堅職員研修、リーダーシップ研修、管理職向け研修など）

【財務面】

財務基盤の強化では、福岡県からの指定管理料のほか、福岡市からの「自主文化共催事業実行委員会負担金」の基、福岡県と福岡市が共催して行う文化振興事業の実施に充てている。自主財源を確保しつつ効率化を一層進めながら収支管理の徹底を行い、強固な財政基盤の確立を続けていく。具体的な効率化として、事業にかかる従来からのチラシなど印刷物による広報、情報提供、発信を見直し、WEB や SNS の活用を一層進め、また事務にかかる帳簿類の見直しを行い、ペーパーレス化を進めていく。一時的ではない長期的な視点で、環境・社会・経済に配慮した持続可能な事業運営を実施し、賛同者からの寄付金・協賛金など多様な財源を増やしていく。

【各方面とのネットワーク】

他施設との人材交流にも積極的に推進し、「九州類似ホール連絡会議（大分、佐賀、佐世保、福岡、熊本、宮崎、鹿児島など）」や「コンサートホール連絡会議（札幌、墨田、所沢、新潟、京都、福岡）」等へ参加し、事業連携に繋げている。

【施設面】

アクロス福岡は開館から 25 年が経過し、抜本的な設備更新が必要であることから、「福岡シンフォニーホール」の 14 か月の大規模改修を実施。（2021 年 8 月 1 日～2022 年 9 月 30 日まで）課題であったバリアフリー化も、ホールのエレベーター改修工事に伴い、障がいのある方や、高齢者を安全に効率的に誘導できる目途がたった。

また、トイレにはオストメイト対応の更新工事をするなど、今後も利用者の目線に沿った安心できる魅力ある施設を持続的に維持・進化させていく。

■計画（P）と実行（D）に対する検証（C）と改善（A）へ

これらの成果の検証・改善も必要であることから「職員人事評価シート」や「事業評価シート」の作成と面談や、外部からの「評議員会」による事業検証や、「公社等外郭団体経営評価」を実施。現状の能力や事業実績に対する改善を行い、新たな目標・計画に生かすサイクルを着実に回していく。